

業界人からの年頭所感

あけましておめでとございませう。

二〇二二年は、二月のロシアによるウクライナ侵攻にはじまり、急速な円安進行による資源・エネルギー価格高騰とともに資材・部材価格も上昇しました。ま

製造コスト上昇と部品調達難への対応や環境課題をはじめとした取り組みなど、企業への社会的要請は尽きませんが、エアハンドリンクユニット(AHU)やファンコイルユニット(FCU)を製造する当社にとってはこの機を、生産性向上と製品の環境性能を高める機会ととらえることもできます。



氏人久 小田

新晃工業 技術本部第二テクニカルセンター部長

性能と品質が工場の使命

た前々年から長引く、特に電気電子部品の調達難も事業活動に大きな影響を与えました。

さらに、四月には東京証券取引所が市場再編され、プライム市場の上場企業に対しては、気候変動に係わるリスク及び収益機会が自社の事業活動や収益等に与える影響に関する開示、いわゆるTCFD提言に基づく情報開示がCGコードで求められるようになりました。

当社は「SIMA(SINKO Innovative Manufacturing of AHU)」プロジェクトによる業務のデジタル化を推進しています。コロナにより社会基盤としてのデジタル化が加速する中、空調機器の営業、設計から生産まで各工程にデジタル技術を導入し、大幅な生産性向上を目指しています。

事務所、商業施設から工場など多種多様な建築用途に対応する当社製品は、オーダーメイドで設計・製造を行っています。仕様に関するデータ入力から設計・製造に至る各種データ作成には多くの時間を要し、かつ各部門間の正確な情報連携に多大な工数が必要とする点が課題となっていました。

この課題を解決するため

に3DCADを用いて、ユーザービリティの高い機器設計環境をつくと同時に、生産に必要な加工データを作成し、業務効率化をはかる取り組みを行っています。

メーカー技術者としては、製品における性能と品質の向上は使命と言えます。十年以上使用できる空調器では、そのCO₂排出量のインパクトが大きくなることは想像に難くありません。

ファン・熱交換コイルなど基幹部品の性能向上は、大きな社会的意義があります。3Dモデルによる熱流体・強度など解析技術は一般化し、試作パターンの絞り込みや数値データによる分析など製品開発に大きな威力を発揮します。

一方で実際の計測データとの合わせ込みには未だ専門的な知識が不可欠であり、技術力の証左にもなります。試作検証の信頼性を高め、最終的な製品品質の確認という面でも、新たな計測技術の開発や導入も重要です。

また、サステナビリティを意識した製品設計もますます重視されます。金属部品が多い空調機部品のリサイクル率を高め、原材料の使用量削減とともに輸送効率向上や廃棄量削減、効果的なコンパクト化・軽量化にも取り組んでいきます。明るい未来に向けて技術開発を武器に道を切り開いていく所存です。本年もよろしくお願い申し上げます。